

図 16. 2 歳ブリのへい死率と細胞密度, O₂-レベルとの関係.

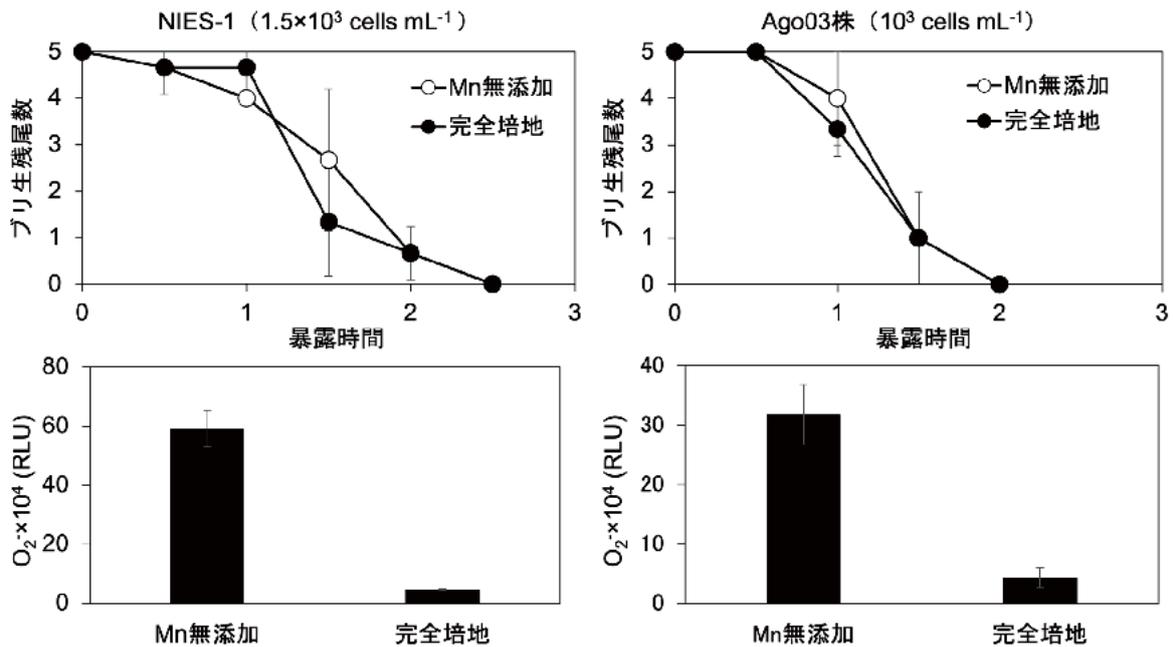


図 17. 魚毒性および O₂-レベルに及ぼす Mn の影響.

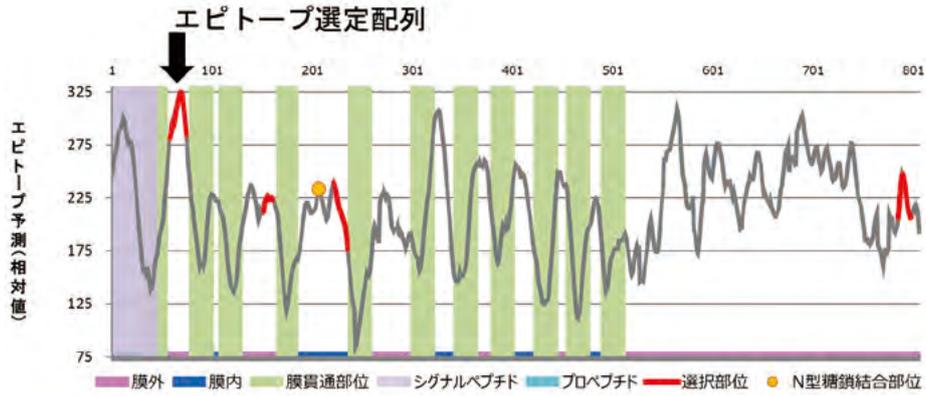


図 18. 抗原部位予測と NOX25216 におけるエイトープ選定配列.

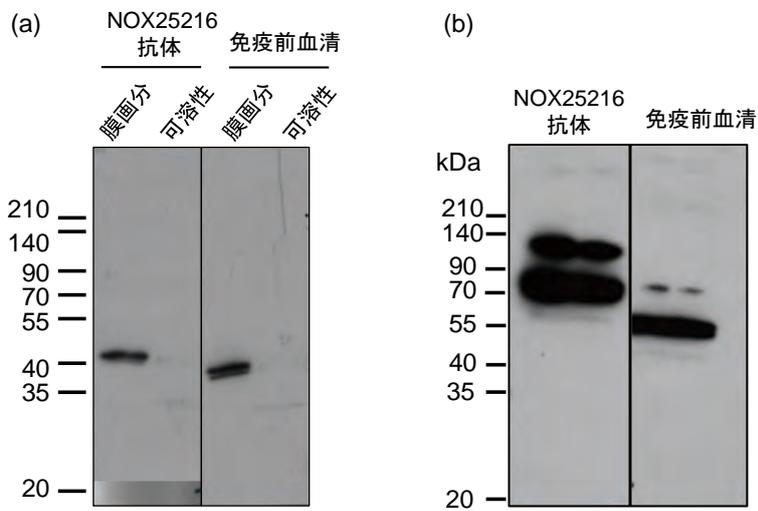


図 19. 新たに作製した NOX25216 抗体を用いた NIES-1 株 (a) および Ago03 株 (b) における NOX のウェスタンブロット検出.

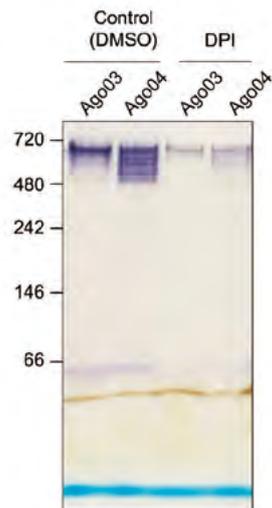


図 20. *Chattonella* 膜面分の O_2^- 産生活性に及ぼす DPI 投与の影響. それぞれ 1 レーンあたり 3 μ g のタンパク質を泳動した.

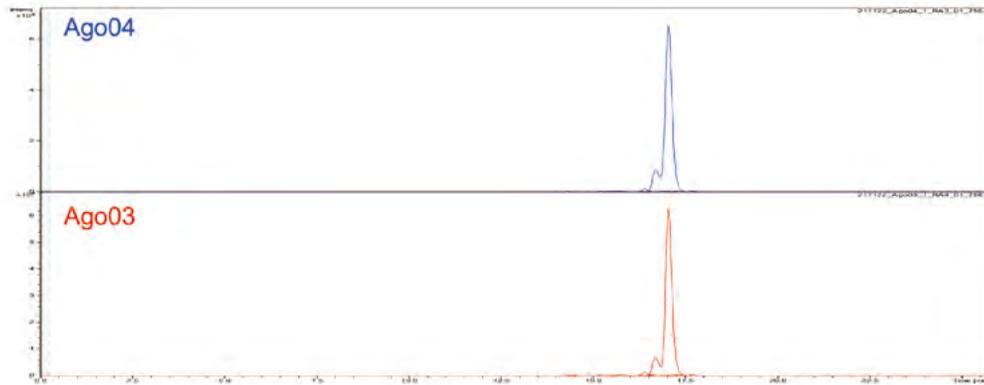


図 21. *Chattonella* 各株における遊離不飽和脂肪酸と過酸化物の検出（抽出イオンクロマトグラム）．遊離脂肪酸に過酸化物はほとんど検出されなかった（元の高度不飽和脂肪酸の 0.1% 以下）．

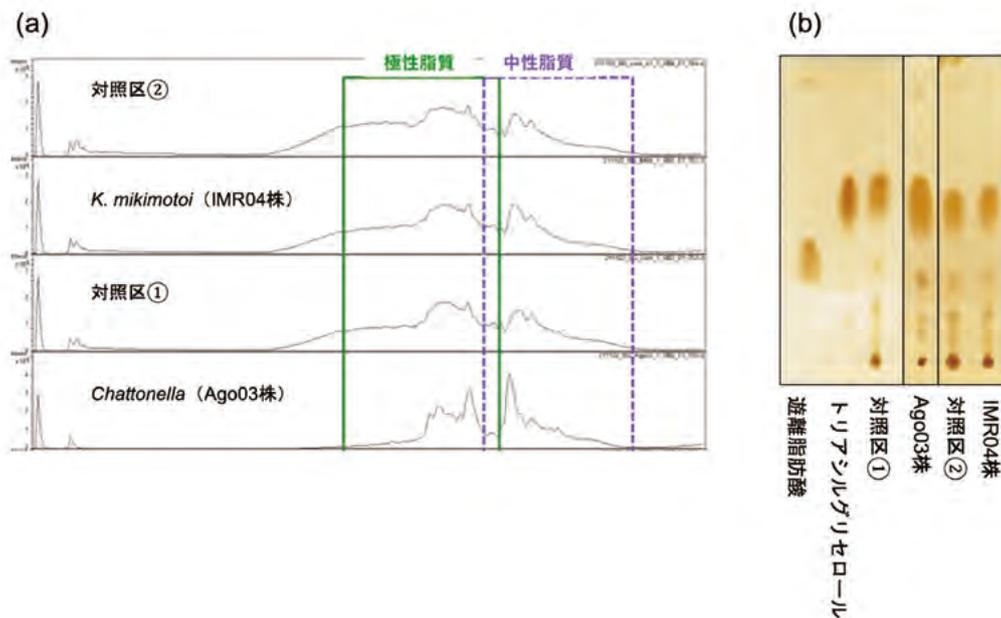


図 22. ブリの鰓における脂質の検出（a：抽出イオンクロマトグラム）と薄層クロマトグラフによる脂肪酸の分離（b）．

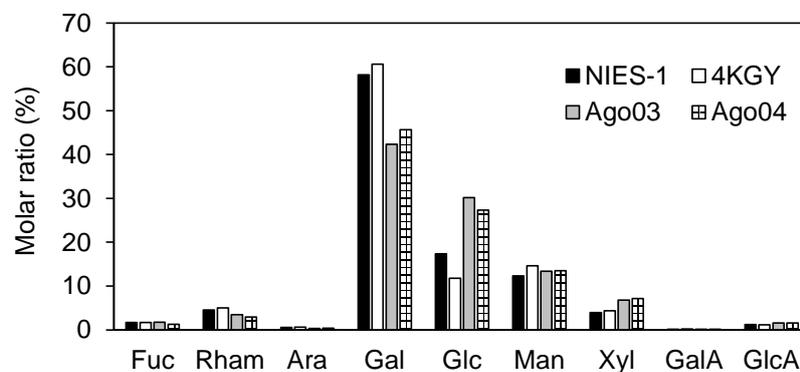


図 23. *Chattonella* 各株の単糖組成.

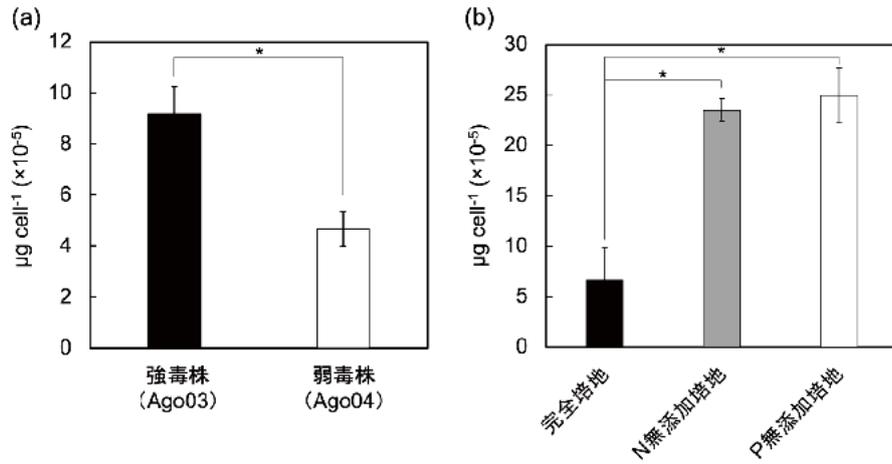


図 24. *Chattonella* 各株 (a) および培養条件別 (b) のグリコカリックスの糖含有量. アスタリスクは統計的に有意な差が認められた区間 (* $p < 0.05$, t-test, Tukey HSD test) .

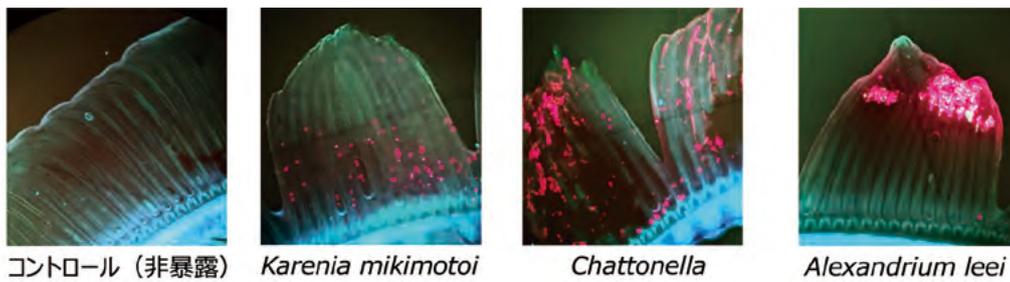


図 25. 各種赤潮プランクトンに暴露されたブリの鰓の蛍光像 (BV 励起) .

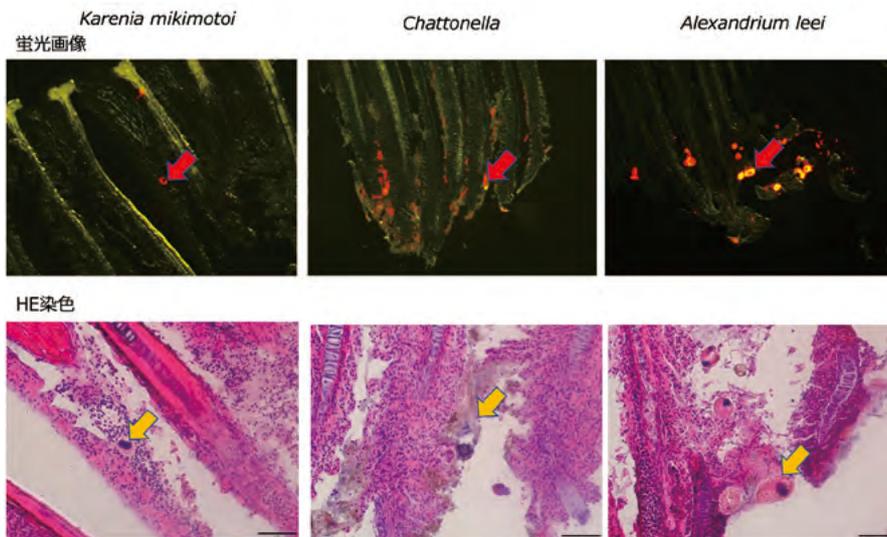


図 26. 各種赤潮プランクトンに暴露後, 無固定で凍結されたブリ鰓の画像. 矢印は赤潮プランクトンと考えられる像.